

議会だより



なかさつない



『おいしくなあれ!』(きらきら保育園・上札内保育園合同「野外炊飯」)

9月定例会

平成29年度決算審査 予算の使われ方と施策の効果をチェック!

一般質問 3人の議員が登壇

臨時会

委員会活動報告、議員派遣、編集後記

策の効果審査

平成29年度一般会計の歳入決算は、前年度比32・37%減の46億2103万円となり、歳出についても前年度比33・67%減の44億3560万円となりました。また、戸蔭大橋災害復旧事業、新庁舎基本設計、産地パワーアップ事業の機械導入事業などの翌年度繰越額は1億2237万円です。

決算審査

平成30年9月 村議会定例会

9月定例会は、9月4日に招集され、会期を14日までの11日間と決定し、4日には意見書1件、選挙1件、報告1件、議案9件を審議・可決しました。

また、平成29年度各会計決算の認定6件については、10日と11日の2日間、本会議で審議され全て認定されました。

14日は、追加議案2件を可決し、一般質問では3人の議員が質問を行い閉会しました。

総務費

新電力導入実績は

問 新電力の導入を進める考えが示されていたが、平成29年度に導入された施設はあるのか。

答 平成29年度は事前調査を行い、その結果を踏まえて、削減が期待できる施設については、平成30年度から導入を図っている。



総務費

コミュニティバス 運行改善と利用状況は

問 利用者との意見交換、利用状況調査では、どのような意見等があったのか。

答 市街地では、要望のあった中札内歯科診療所と農協直売所をルートに追加している。農村地域では、利用希望に応じルート延長や変更を行った。

問 どの程度の利用数なのか。

答 平成29年度は、農村部581人、市街地3216人で合計3797人の利用者数だった。前年度対比では1・7倍の利用となった。

提言 ガラガラの状態ですべての状況が見られる。希望に対応して運行するデマンド方式への変更も検討されたい。



利用率が課題となっている「くるくる号」

総務費

花咲くコンサート 必要性の検討を

問 花咲くコンサートに800万円の助成をしているが、他のイベントに助成し中札内村を売込むこともできる。

答 今後実施すべきか検証する必要があるのではないかと。

提言 三千人の方が村を訪れてくれるイベントであり、他のアイデアでこれだけの人を呼ぶことは難しい。六花の森の資源を生かせるのは中札内村だけであり、交流人口を増やすこと、村を発信することで非常に大きな効果があると考えている。



今年で3年目を迎えた花咲くコンサート

平成29年度 決算審査



お金の使いみちと施

歳入・歳出減の主な要因は、平成28年度はえだ豆工場増設のための強い農業づくり交付金事業18億1625万円の実施や、村民プール建設、村民体育館改修事業などがあつたことによるものです。

基金残高は一般会計と特別会計を合わせて41億6569万円で、前年度より1億1219万9千円余り増加し、村民一人当たり105万円の貯金となりました。

また、**地方債残高**は45億2741万円で、前年度より2995万円の増加となり、村民一人当たりの借金は115万円となりました。

なお、決算認定審査での質疑の主なものを掲載します。

民生費

高齢者等通院交通費 未活用では

問 高齢者等通院タクシー交通費は、6500円しか執行されていない。機能していない制度ではないのか。村としてどのような仕組みに変えていく必要があるのか、他の自治体も参考に研究したい。

答 えていく必要があるのか、他の自治体も参考に研究したい。



民生費

ヘルプカード・ヘルプマークの周知を

問 ヘルプカードやヘルプマークが配布されているが、持つ側の人にはそれなりの周知がされていると思うが、助ける側の人に理解されるよう周知はされているのか。

答 より周知を行っているが、それでは足りると思わず、一般の人にも理解されるよう継続的な周知に努めていきたい。



ヘルプカード・ヘルプマーク携帯者への理解を

民生費

緊急通報システムの全戸設置を

問 緊急通報システムは、ひとり暮らし高齢者世帯全戸に設置すべきではないのか。

答 必要があるかないかの判断があつたり、希望されない方もいる。ここ数年は、民生委員や設置している方の協力もあり、設置件数は増加している。

提言 緊急時に有効なシステムであり、職員と民生委員などが連携し、多くの高齢者世帯に設置されるよう努められたい。



民生費

認定こども園での 体力づくりは

問 認定こども園としてスタートし、子どもの体力づくりに力を入れるとのことだったが、その内容と効果に対する評価は。

答 専任講師を迎え、サッカー教室とマット、跳び箱、鉄棒を使った運動教室を行っている。保育士もその指導法を学んで日常的に実践しており、例として鉄棒の逆上がりができるようになるなど、体力向上を実感している。



専任講師による運動教室

衛生費

七色献立プロジェクト モニター事業の成果は

問 七色献立プロジェクトモニター事業の内容と、その成果は。

答 モニター参加者の団体や職場に広めてもらうことを目的に20名に参加いただき、健康セミナー、調理実習、運動教室などを実施した。生活意識に変化があつたとの意見を16名のモニターからいただいた。

提言 モニター事業の成果があり村の野菜をお店で提供する「七色野菜彩りプラス」も1600食の実績だった。

今年度事業の参加者も増加するなど、健康長寿に結びつくものと期待する。



彩りプラスメニューのひとつ

主な決算質疑

平成29年度
決算審査

衛生費

特定健診受診率の向上を

問 特定健診受診率が、対前年度比3・7%減少している。

その要因をどう捉えているのか。

答 冬季に実施している健診の受診率が少ないことや、隔年で受診される方がいる。冬季の受診奨励や毎年受診の働きかけが必要と考えている。

提言 受診率の高い自治体は、保健師と診療所等の医師との連携が成果に表れている。

本村においても連携強化を図りたい。



商工
観光費

札内川園地再整備計画は

問 台風被害を受け、観光拠点施設として再整備を行う計画を策定されているが、その内容はどのようなものか。

答 バンガローの再整備は現在地では難しいと考えており、旧レストハウス付近にダム管理用道路が整備されることになっていることから、それに合わせ、周辺への移転を計画している。実施時期は平成32年度を予定している。



再整備が計画されている旧レストハウス周辺

土木費

市街地舗装道路の補修状況は

問 市街地舗装道路のひび割れが多くある。水が溜まるとひび割れも拡大するので、毎年の補修が必要ではないのか。

答 補修に費用をかけてきていないこともあり、影響が出てきている。新設工事も含めた全体的な事業経費を把握し、道路整備・補修の進め方を検討していきたい。

問 道路の現況調査を行い、今後の道路整備に生かすとのことだったが、調査の状況は。

答 砂利道が周辺民家にどのような影響を与えているのか調査を行っている段階にあり、全体的な調査は終わっていない。

提言 早期補修を行うことで将来的な投資を抑制する効果もある。再点検し、効果的な維持補修を検討されたい。



市街地舗装道路で見られるひび割れ

土木費

適正な公園管理を

問 自然の森の水車が動いていないが、どのような管理をされているのか。

答 河川の水を水車の動力にしていたが、河川の流れを水車側に引き込むことは違法行為との指摘を受け、現在水車が回らない状況になっている。

提言 違法との指摘もあるのであれば撤去も検討すべき。放置することでは管理への疑問の声が聞こえてくる。



現在回っていない水車

土木費

村営住宅修繕担当職員の配置を

問 修繕担当職員（大工）が不在となった後の修繕はどのようにされているのか。また、入居者の要望に答えられているのか。

答 軽微なものは職員が対応しており、それ以外は業者に依頼し対応している。今までは若干時間がかかっていると思う。

提言 修繕担当職員を置くことで、即対応が可能だった。配属の再検討も必要ではないのか。



税金の使われ方は？

教育費

上札内小学校の今後は

問 上札内小学校の児童数の今後の推移はどのように捉えられているのか。

答 現在の児童数は14名だが、現4年生が卒業する平成33年度には10名程度になる。

問 そうなると中札内小学校との統合も考えていくことになるのか。

答 統廃合のガイドライン

では、5学級程度以下になると検討準備を行うことになっている。ぎりぎりになって統廃合とはならないので、先を見通し検討したい。



児童数の減少が見込まれる上札内小学校

教育費

アートの村ならではの教育を

問 武蔵野美術大学や昭和音楽大学学生とのコラボ事業が展開されているが、今後も継続されていく予定か。

答 学生が学外に出て研修を積むというプログラムを利用させていただいている。絵と音楽のコラボをイメージし、効果も検証しながら今後について検討したい。

提言 非常に良い事業だと思うので、今後も取組まれ、アートが子ども達に受継がれてほしい。



武蔵野美大の学生による授業の様子



昭和音大の学生による授業の様子

歳入

ときわ野分譲地販売促進を

問 ヴィレッジときわ野第4次分譲

地の未販売区画数は16区画あるが、PR不足ではないのか。

答 移住定住促進施策の中でも触れるなど、販売促進に努めたい。



残区画があるヴィレッジときわ野第4次分譲地

歳入

村税などの収納率向上要因は

問 村民税等の収納率が向上しているが、成果につながった特徴的な取組みは何か。

答 督促、催告、差押さえ予告書の発送による効果と、納税相談による納税誓約により対策を図ってきた効果と考えている。

問 税滞納機構への依頼と収納状況は。

答 依頼件数5件で、依頼額は218万円余り。収納率は24・56%だった。

提言 徴収業務は大変な業務だが、使用料の滞納も改善されており、引続き努力されたい。

歳入

保育料の軽減件数と軽減額は

問 保育料軽減対象件数と軽減額は。

答 母子世帯等12件、3子目全額軽減33件、2子目半額軽減55件で、合計1739万円余りの軽減額となっている。

問 保育料軽減に対し国からの助成はあるのか。

答 交付税で措置されていることになるが、額は不明である。

本会議で決算認定審査の結果、各会計決算は可決され認定されました。
決算質疑の内容が、本年度の事業及び平成31年度予算へ反映され、よりよいまちづくりへと発展するよう、議会としても引続きチェック機能を発揮していきます。

条例の制定

◆中札内村屋内多目的運動施設設置条例の制定

屋内多目的運動施設の整備に伴い、条例の名称を「中札内村屋内多目的運動施設設置条例」とし、条例を制定するものです。

この施設は、ゲートボール場として使用できるほか、野球やサッカー、テニスなど、少年団や中学校の部活動、一般での多目的な利用が可能です。11月中には完成し、12月からの供用開始を予定しています。

問 使用料は、団体は1日500円、個人は1回100円となっているが、何人以上が団体扱いとなるのか。

答 村民体育館に合わせ10人とする。

問 施設には管理人を配置しないとされているが、鍵などの管理はどのようにされるのか。

答 鍵の管理は使用団体に任せ、保健センター警備員が見回り・点検を行うようにする。

問 ゲートボールの使用が主となると思うが、少年団等の利用希望や急な一般利用の対応は可能なのか。

答 急な利用は難しいが、ゲートボールは午前から午後2時から3時くらいまでの



12月からの供用開始に向けて工事が進んでいる

利用であり、夕方から夜に利用する少年団や一般利用とは重複しないと思う。

提言 供用開始にあたっては、各団体等と連携され、齟齬（そご）がないよう調整されたい。

補正予算

補正内容と質疑の主なものを掲載します。

診療所委託料の追加

診療業務管理委託

1000万円

入院患者数の減少や診療報酬改定による減収により、追加するもの。

問 大きな額の追加だが、昨年と比較してどのような状況なのか。また、診療所ではどのような努力をされたのか。

答 6月までの一日平均入院患者数が、昨年の7・1人から4・8人に減り、現在まで更に減少している。また、診療報酬の改定と薬価の引下げも大きく影響している。診療所では、病院食の外部委託、付添いヘルパー削減などの努力もされている。

問 来年以降の見通しは。

答 収支が改善されなければ委託料の増加は避けられない。地元診療・入院施設の維持のためには村の負担増はありうるが、村としても診療所が利用されるよう努める。

人工透析機器更新支援

医療法人慈弘会補助金

255万9千円

大樹町森クリニックスの人工透析機器更新支援のため、追加するもの。

問 南十勝5町村で負担するものだが、本村の負担割合は。

答 本村は8%の負担であり、最大負担町村は大樹町で41%である。

問 本村からの通院者はいるのか。

答 これまで通院された方はいない。

問 本村からの通院者がいないとしても負担するのか。

答 南十勝唯一人工透析ができる病院であり、高規格道路の開通により利便性も向上している。今後も村民の通院が無いとはいえず、南十勝の一員として負担する。

提言 近いところで人工透析を受けられるというメリットもあり、村民周知に努められたい。



11月11日に販売開始予定

プレミアム商品券事業補助金

442万5千円

商工会が、村内商店等における消費拡大を目的に実施するプレミアム付き商品券の販売に対して補助するため、追加するもの。

問 商品券の販売数及び使用できる期間は。

答 1組一万二千円券を一万円で、一人2組までとし2100組販売する。使用できる期間は、発売日から翌年3月31日まで。

問 JA中札内村はこの事業に参加されるのか。

答 村内事業所が幅広く参加していただけるようお願いしていきたい。



七色献立プロジェクト さらなる推進へ

旅費 16万8千円

七色献立プロジェクト事業の更なる推進のため、先進地視察旅費を追加するもの。

消耗品費 11万4千円

健康ポイント事業参加者の増により、活動量計30台を購入するため追加するもの。

問 先進地視察による事業強化とは、どのようなものを予定しているのか。

答 庁内検討委員会による視察で、札幌近郊と道南方面の2カ所を予定しており、強化事業の概要は視察結果を踏まえ委員から意見を受け決めていく。

上札内プール跡地

地域住民の意見を反映

工事請負費 ▲675万円

上札内プール跡地を芝生とするため工事費を計上しているが、地域との話し合いにより取止めることとしたため減額するもの。

提言 夏のイベント利用も現状のままで支障はなかった。地域の意見も踏まえられ、財政的縮減も図られたもので大変よかった。



現状のまま利用されるプール跡地

大規模草地育成牧場

指定管理者変更準備を

牧場管理委託 5786万7千円

牧場管理準備委託 438万7千円

牧場管理に係る指定管理者の変更に伴い、冬季舎飼いから来年3月末までの委託料を追加するもの。また、指定管理者の引継ぎと準備に要する期間の費用を追加するもの。

問 JA中札内村に支払っている委託料は精算により戻ってくるのか。また、準備に要する期間ほどの程度見込んでいるのか。

答 JA中札内村とは、指定管理終了後に指定管理期間に

要した費用を確定し、戻り金があった場合は精算し補正により減額する。準備期間は、冬季舎飼いまでの1ヶ月ほどであり、受け入れの準備、清掃、引継ぎなどを行っていた。

問 指定管理者が変わることにより、委託料に差が生じるのか。

答 新たな指定管理者の年間事業費計画では、若干安くなっているものの、飼料費や肥料費などの実績はまだ無く、計画事業費から変動することもあると思う。

浄化センター管理費

脱水汚泥堆肥化処理委託

27万6千円

大規模草地育成牧場に脱水汚泥を搬出しているが、新たな指定管理者においては運搬業務ができず、他の業者に委託する必要があることにより追加するもの。

問 運搬に要する頻度が多くないのであれば、村の直営によることも可能ではないのか。

答 運搬作業は、週3回、年に160日あり、現状の職員での対応は困難である。

指定管理者の指定

◆中札内村大規模草地育成牧場に係る指定管理者の指定

○指定管理者 農事組合法人カーフゲート

○指定期間 平成30年10月～平成34年3月31日

問 村内の酪農家組織が指定管理者になるが、多くの村内酪農家が施設を利用していくべきと考える。酪農振興会などでそのような確認はされているのか。

答 酪農振興会会議の中で、村内酪農家が大規模草地育成牧場の運営に関わり、しっかり支えて行くことが確認されている。

提言 多くの酪農家が利用することで経営の助けにもなり、利料の抑制にもつながる。施設に空きのない受入れ頭数になるよう努められたい。



新指定管理者による運営となる大規模草地育成牧場

災害対策と被災地支援

職員手当等 102万9千円

旅費 10万円

燃料費 22万円

9月6日に発生した胆振東部地震に伴う停電対応や支援所開設に伴う人件費等と、厚真町他2町からの北海道災害対策本部への職員派遣要請に対応するための旅費、発電機で利用した燃料費を追加するもの。

問 停電対応への職員の出役人数は。

答 3日間で、実人数62名、延べ102名の出役だった。

ヒグマ及び 有害鳥獣駆除対策

中西議員 被害や駆除状況は

森田村長 農作物食害とアライグマも捕獲



中西 千尋 議員

中西千尋議員

道内、十勝管内でもヒグマの目撃や農作物被害が報道されていますが、本村での目撃や被害、村の対応や猟友会の出動はどのような状況なのか。また、他の有害鳥獣の被害や捕獲状況について伺います。

森田村長

ヒグマの出没状況は、今年度8月までに8件の目撃情報が入札内、南札内、西戸蔦地区から提供されており、このうち2件で農作物の食害が報告されています。

村では、「北海道ヒグマ管理計画」に基づき、その有害性に応じて3段階に分け、そのつど対応しています。情報無線での周知、注意喚起、猟友会による見回りを行うほか、「問題固体」の排除を行うべく箱わなを設置し、



箱わなにかかったヒグマ

小熊1頭を8月下旬に捕獲しました。

特に、人身被害が懸念される時には、今後も迅速かつ確実に地域住民の安全のため周知や対策の徹底に努めていきます。

有害鳥獣の昨年度の捕獲頭数は、ヒグマ4頭、エゾシカ259頭、キツネ203頭、カラス734羽、ドバト520羽となっており、今年度は新たにアライグマが1頭捕獲されています。

今後も、「有害鳥獣対策協議会」「鳥獣被害対策実施隊」「猟友会帯広支部中札内部会」と連携協力し、農業被害等を防止するために駆除対策を進めていきます。

「日本で最も美しい村」 連合加盟を生かす取組み

中井議員 今後どう取組むのか

森田村長 意識醸成を図る



中井 康雄 議員

中井康雄議員

本村が、「日本で最も美しい村」連合に加盟してから2年が経過しますが、加盟した事により加盟前に比べて何が変わってきたのか、これからどのように進んでいくのか。また、農村景観やまちなか景観の花の村としても中札内村は力を入れています。それぞれの今後の取組み等についても伺います。

森田村長

景観づくりが村全体の取組みとなるよう理解促進に注力し、広報紙やインターネット、フェイスブック等SNSを活用した情報発信だけでなく、景観シンポジウムやフォトコンテストなどを実施し、美しい村づくりを積極的にPRしています。



守り継いでいく農村景観

今後も、村民の景観づくりに対する意識の醸成を図り、村の貴重な財産である恵まれた自然や美しい農村景観を次の世代に引継ぐための取組みを進めます。また、農業の営みにより作り出された農村景観を維持するため、村は今後も農業の継続的な発展に向けて取組むとともに、防風保安林の適正な維持管理や苗木の助成を継続します。

まちなか景観については、公園や街路樹の適正管理に努め、各家庭、地域での環境美化の取組みを支援していきます。

花の村づくりでは、担い手の育成や、村民、各種団体と連携した取組みを進めます。

一般質問

自律を決意した村づくりの意気込み

北嶋議員 職員のやる気をどう引出すか

森田村長 対話でやる気を



北嶋 信昭 議員

北嶋信昭議員
村が自律を決意して十数年が経ちますが、村としての活発な動きは見られません。村づくりに対し、村長はどう職員に指示し、やる気を引出し、評価を伝えているのか伺います。

森田村長
自律した村づくりを進めるためには、まちづくり基本条例で定める村民、議会及び村の適切な役割分担による協働のまちづくりが重要であると考えています。

村長就任後、課長職については、毎月開催する定例庁議や経営戦略会議などでの情報交換や政策的な指示、意見交換の機会が数多くあります。全体的な村づくりについては、意見交換する場合が少ないことから、個人から直接聞



面談などで対話の機会を設ける

取りする機会を設けるため、昨年6月30日に課長補佐職及び主査以下の職員と個人別に私自身、直接対話をし、村政の現状や課題の聞き取りを行うとともに意見交換しております。

平成21年度から管理職、平成29年度から主査職を対象に本格実施している人事評価制度でも年に3度の面談を行っており、職員のやる気を引出すための手法と考えております。

今後とも様々な機会を通じて職員の仕事に対する「やる気」を醸成するよう努めてまいります。

各種委員会の委員

◆中札内村選挙管理委員及び選挙管理委員補充員選挙当選者

○選挙管理委員

須田 清司 氏
鎌田 則子 氏
山田 吉隆 氏
木村 千秋 氏

○選挙管理委員補充員

阿部 昇 氏
片岡 滝子 氏
櫻井 康正 氏
松本 敏幸 氏

◆固定資産評価審査

委員会委員

松村 則行 氏
の選任に同意しました。

◆中札内村教育委員会委員

山口 博子 氏
の任命に同意しました。

次の定例会は12月です

主な内容は、一般質問と議案審議です。

村民みなさんの傍聴をお待ちしています。

また、インターネットによる議会中継を実施しています。

～お知らせ～

9月より、議会中継はYouTubeでの配信に変わっています。

村のホームページ内  議会中継 のボタンをクリックしてください。

『議会中継』のページからYouTube中札内村議会公式チャンネルにアクセスできます。

意見書

◆林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書

人工林資源が本格的な利用期を迎える中、既存の制度や来年度に創設される森林環境譲与税（仮称）を活用した地域特性に応じた森林整備の着実な推進や、森林資源の循環利用による林業・木材産業の成長産業化の実現に向けた施策の充実・強化のため、次の措置を講ずるよう強く要望する。

- 1 林業・木材産業の振興と山村における雇用の安定化のため、森林整備事業及び治山事業財源の安定的確保を図ること。
- 2 林業・木材産業の成長産業化実現のため、森林整備から木材加工・流通、利用までの一体的な取組みや担い手育成に必要な支援措置の充実・強化を図ること。

提出者 中井康雄 賛成者 北嶋信昭

意見書は採択となり、関係大臣並びに関係機関に提出しました。

7月19日(木)

審議案件 報告1件、議案2件
(原案可決)

質疑があつた主なものを掲載します。

補正予算

大雪被害に対する支援

経営体育成支援事業補助金

1001万8千円

平成30年3月の大雪被害の支援対策補助が採択され、二つの経営体に対し補助金を支給するため追加するもの。

問 補助金の制度と大雪被害への対応の経緯については。

答 3月の大雪被害対策として、国が経営体育成支援事業の中に被害に対する助成を加えたことから、村では要望等をまとめ申請した。

支給対象は、雪の重みによるポテトハーベスターの損傷修理と牛舎の倒壊再建助成で、事業費総額3606万8千円の10分の3を追加する。

健康ポイント事業に関心高まる

消耗品費 79万3千円

8月から開始するタニタ式健康ポイントスタート事業の申込み人数が、当初予定した人数を上回ったこと、今後の申込み人数を見込み、活動量計等を追加購入するため追加するもの。

健康ポイント事業交付金

50万4千円

タニタ式健康ポイントスタート事業で、村内事業所単位での取組みに対し交付金を支給するため追加するもの。

国による補助が決定

畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業交付金

3億9749万8千円

事業主体に対する補助が採択されたことから、村の会計を介して事業主体に交付するため追加するもの。

問 どのような事業主体、事業内容に対する交付金なのか。

答 村内のひとつの酪農経営体で、搾乳施設及びロータリー搾乳ロボットを導入する8億7990万円程度の事業費に対し、概ね2分の1の交付金が支払われる。

問 参加の申込み人数が当初の予定を上回ったことだが、現時点までの参加人数は。また、今後の事業計画と継続の見通しについては。

答 当初70人程度と想定していたが、314人の参加となっている8月1日に説明会を開催し事業をスタートしていく。

平成30年度が初年度ということ、活動量計は無償貸与で参加していただいている。

今後の参加者の状況や継続する方の人数等を勘案し、事業の仕組みや継続方法などを確定していきたい。少なくとも3年から5年、可能であれば長く続けていきたい。

地域おこし協力隊3名採用へ

地域支援推進員賃金 191万2千円

地域おこし協力隊を、福祉等に関する地域支援推進員として1名配属するため追加するもの。

観光振興推進員賃金 107万1千円

地域おこし協力隊観光振興推進員を、当初採用予定の1名から2名に増員し採用するため追加するもの。

問 地域おこし協力隊の採用が、当初の1名予定が3名になった理由は。またそれぞれの業務内容は。

答 3名からの応募があり、試験の結果、1名は福祉課の地域支援推進員、2名は観光振興推進員として採用することとした。

観光振興推進員2名は、これまでのキャリアが即戦力として期待できること、観光振興に対する熱い思いがあり、起業意識が高いことから採用する。

地域支援推進員は、地域福祉の業務への関心が高く、社会福祉協議会が行う事業に関わっていた。



道の駅で活動する観光振興推進員

提言 予定を上回る参加人数になったのは健康への関心が高いからと感じる。参加者が成果を感じられれば事業は継続でき、村民の健康寿命が長く保たれる事業になる。検証され事業を継続されたい。



ポイント事業 計測場所

第4回 臨時会

8月20日(月)

審議案件 議案3件

(原案可決)

財産の購入

◆ホイルローダーの更新

堆肥化処理施設で更新するホイルローダー1台の購入を、コマツ道東株式会社帯広支店と1807万5千円で売買契約することを可決しました。

問 現在使用している車両は下取りに出さなかったのか。また、指定管理者からの負担金だけで、今後計画する機械類の更新は出来るのか。

答 今回の競争入札での下取りは条件にしておらず、別途売却を検討する。

今後については、平成33年度までの堆肥化処理施設の修繕計画に基づき、平成33年度にホイルローダー1台を更新するが、指定管理者からの負担金(車両更新費用積立金)で賄える。

問 売却収入は、どここの歳入になるのか。

答 村の歳入となる。

◆発情検知機の購入

大規模草地育成牧場の備品として発情検知機240台の購入を、株式会社ファームノートの発情検知機販売代理店である株式会社NTTDコモ北海道支社と863万8千円で随意契約することを可決しました。

問 指定管理者の変更はスムーズに移行されるのか。

答 指定管理に係る具体的な手続きは今後になるが、発情検知機については、検討されている新たな指定管理者とも協議・調整をし、導入していきたい。

問 発情検知機は、どの程度の確率で発情検知ができるのか。

答 機器装着により発情時期を把握できる確率は、7割から8割と考えている。

補正予算

畜産費

大規模草地育成牧場
連動スタンション設置工事

1862万3千円

牛の捕獲を容易にし、牧場に従事する職員の負担軽減を図るため、設置費用を追加するもの。

当麻町新庁舎視察調査

調査日 8月24日(金)

場所 当麻町

調査の内容

特別委員会は、役場新庁舎建設委員会の視察調査に同行し、今年度完成した当麻町新庁舎の視察調査を行いました。

新庁舎は、地場の木材を活用した木造建築で、家具にも多くの地元木材が使われていました。

建設の手法では、町が建設予算を提示し、施工者がその予算内で建設したものを買取するという方式で行われ、結果的に建設費を縮減できたとの説明でした。

新庁舎は、1階に執務のほとんど

どの機能が集約されており、2階は議会関係の部屋が配置されているほか、防災対策として浸水を想定し、重要書類やサーバー、放送室を配置するなどの備えがされていました。

議場は、大会議室やイベント等でも使用できるよう、可動式の議場机とし、放送設備は無線方式が採用されており、大変参考となるものでした。

特別委員会は、9月24日に、視察調査のまとめを行い、同日に行われた村からの平面計画案の概要説明にその結果を反映させ、意見交換、要望を伝えています。



当麻町役場窓口の様子



多目的利用の工夫がされた議場を見学

村内農作物作況調査

調査日 9月6日(木)

場所 村内圃場3カ所

調査の内容

村農業委員会との合同により、主要作物の作況調査を実施しました。

大豆・小豆などの豆類は、6月上旬より1カ月続いた天候不順により生育は遅れぎみとなっており、小麦も天候不順の影響を受け収量が前年を大きく下回りました。馬鈴しよは平年並みで、てん菜は順調に生育し、平年を上回る収量が見込める状況でした。



圃場での調査の様子

議員派遣

日本で最も美しい村連合
定期総会、フェスティバルinつるい

開催日 7月5日(木)・6日(金)

場所 鶴居村

派遣議員 中井康雄議員
黒田和弘議員

視察内容

連合加盟町村間での発展的な提案や連携による活力ある事業活動と議論に参加し、本村の取組みの醸成に議会活動として寄与することを目的として参加しました。

基調講演では株式会社ナイス取締役会長松尾喬氏を講師に迎え、「美しい村でのフットツーリズムのあり方」と題し、写真のもつチカラを相乗させ、地域や日本全体を元気にする手法や、笑顔・握手・うなずき・相手の名前を呼ぶ・あいさつ等のコミュニケーションの重要性についての講話を拝聴しました。

講演後の分科会では、地域資源を生かした農村観光『農泊の現状とこれから』『自然が果たす人・自然への役割』をテーマにそれぞれ提案・意

見交換がされました。

本村は昭和50年頃から花いっぱい運動の輪が広まり、昭和58年には第20回全国花いっぱいコンクールで内閣総理大臣賞を受賞しました。また、「北の大地ビエンナーレ」による文化の村づくり、さらに、「豊かな自然を未来につなぐふるさと景観条例」を制定し、良好な景観づくりに取り組んできています。

今後も、美しい景観や環境文化を守り継承していくために、住民・企業・村はそれぞれの役割を果たし、一丸となって取り組んでいくことが重要です。



フェスティバルでは中札内村産品の販売も行われた

視察受入

◆鶴居村議会 8月9日(木)
○議会運営について

釧路管内にある鶴居村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しており、特別天然記念物タンチョウの保護活動や、基幹産業である酪農により生産される乳製品のブランド化、酪農景観を生かす観光などの取組みに力を入れています。人口は2900人程度ですが、本村と同様、人口減少率が低いことでもメディアに取上げられています。

本村へは、小規模議会の運営状況の調査のため視察



鶴居村議会議員のみなさんと

来村され、少人数での常任委員会の構成方法、本会議での予算・決算審査の実施状況、議員報酬などを調査されたほか、議員のなり手不足や議会活性化等の取組みなどについても活発に意見交換がされました。

編集後記

今年も日本各地で甚大な自然災害が発生しています。西日本豪雨、多くの台風の影響による被害、そして9月6日の胆振東部地震による災害で道内も甚大な被害を受けました。全道一斉停電は、295万戸の明かりが消え、長時間にわたる家庭や物流などに多くのパニックを引き起こしました。普段から備えはしていたつもりですが、いざとなると足りない物もあり、考え直す機会にもなりました。「備えあれば憂いなし！」

想定外という言葉が通用しなくなった現在、「自助」「共助」「公助」の三助がますます大切になってくると思われます。(宮部)